

◆平成28年1月～9月工事事故の状況◆

◆平成28年1月～9月事故の特徴◆

☆事故件数は、「53件」(速報値)と過去5ヵ年で最も少ない発生状況。

☆死亡事故はなかった。

☆休業4日以上事故が、「4件」発生。過去5年で最小。

☆公衆災害は、地上物件損傷・車両損傷事故が増加傾向。

◆現場での安全な施工に向けて◆

⇒**気温の低下や天候の急変などに注意し、無事故で工事完成を！**

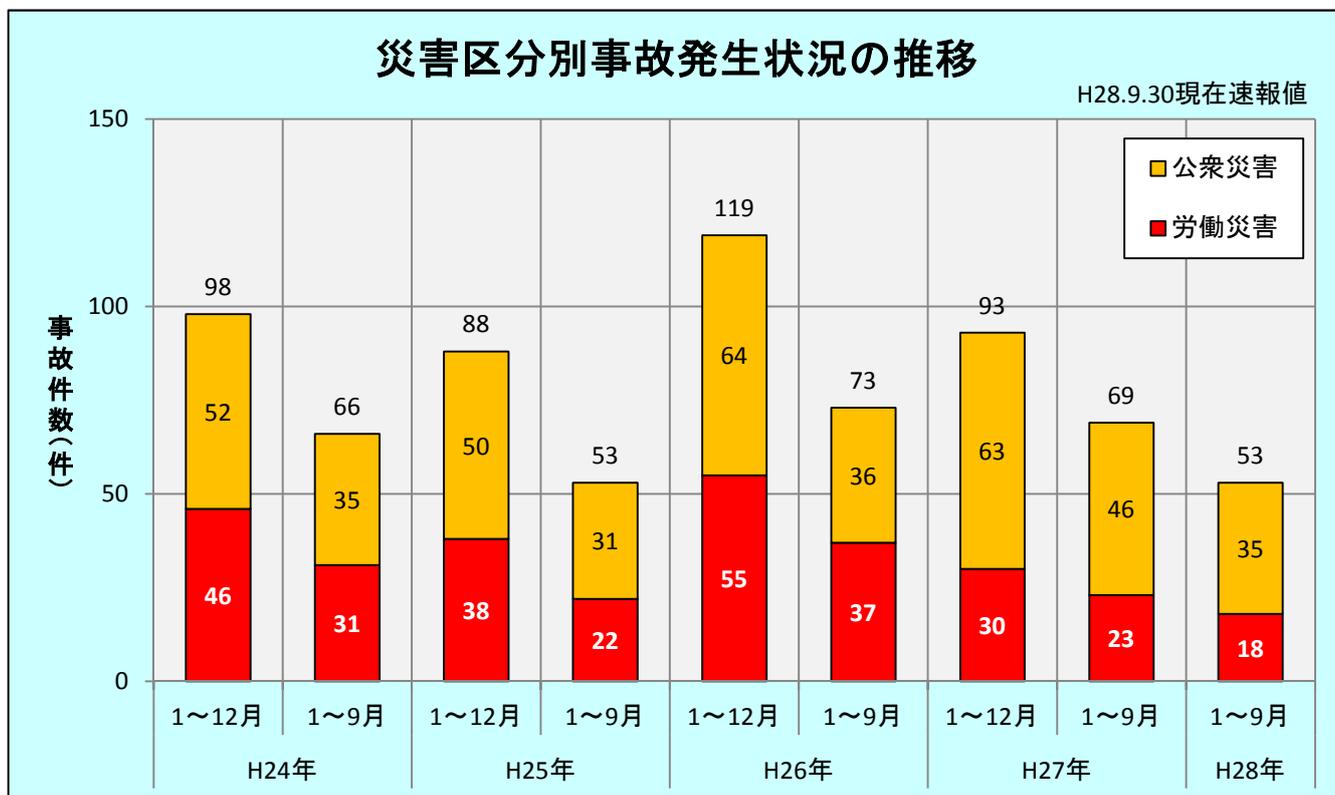
※使用している数値は速報値であるため、今後変更となる場合があります。

※北陸地方整備局発注の直轄工事を対象としています。

1. 工事事故の発生状況

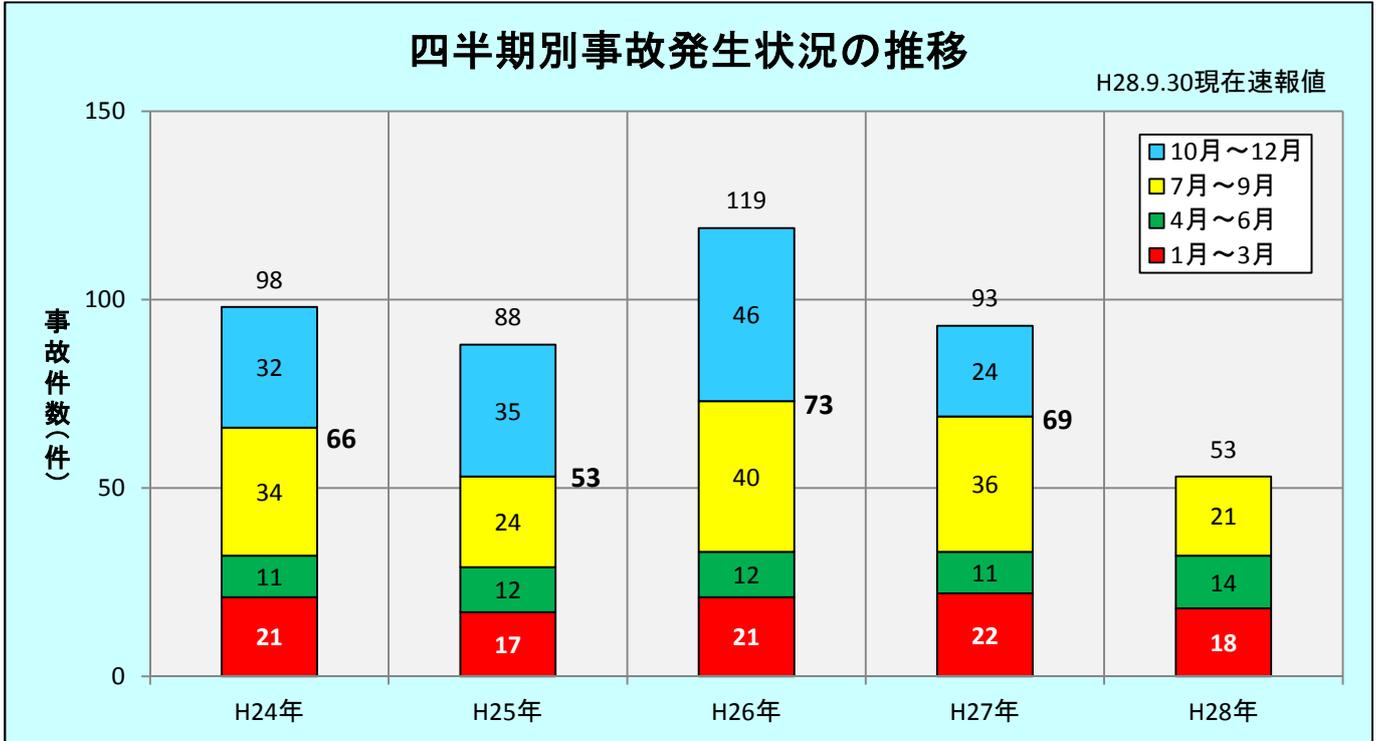
1) 各年の事故件数の推移

H28年9月までの工事事故件数は53件と過去5ヵ年で最も少なくなっています。労働災害は18件、公衆災害は35件と過去5年で最も少ない発生件数となっています。



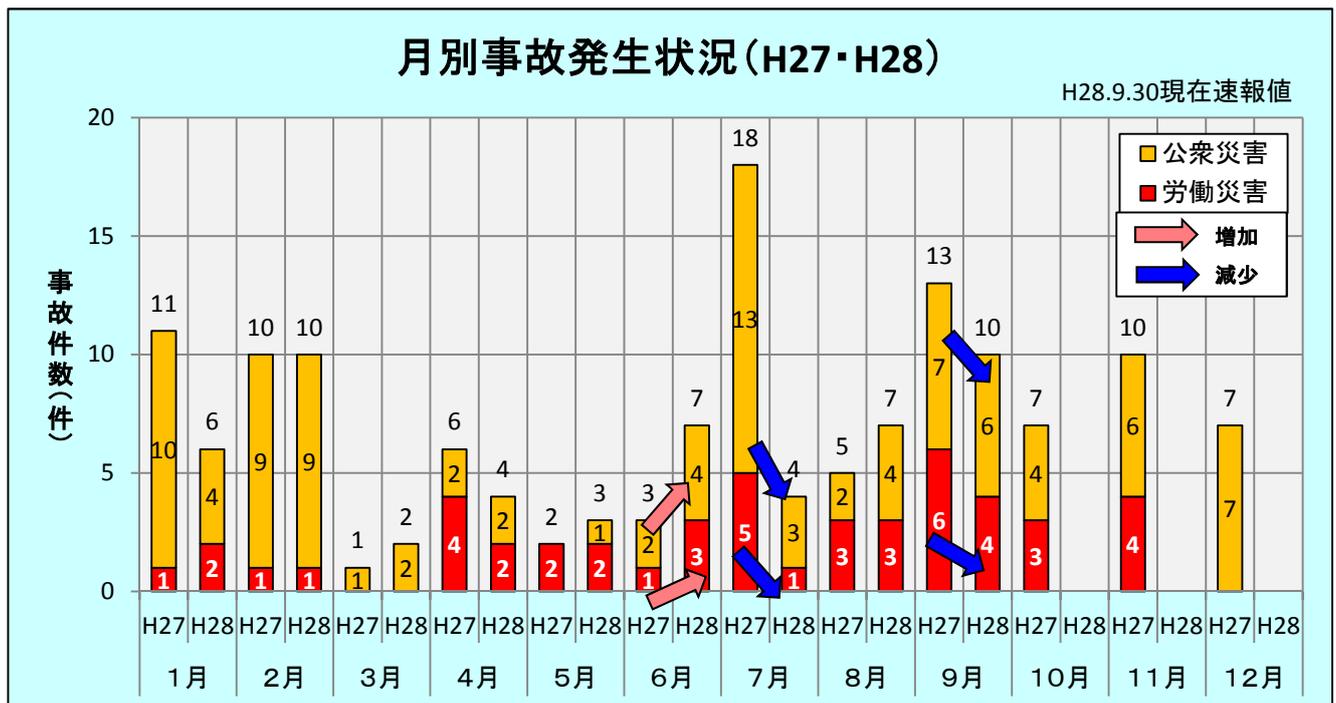
2) 四半期別の事故発生件数

四半期別事故発生件数を比較すると、H28年は4月～6月の事故が過去5年で最も多く、7月～9月では最も少ない発生状況です。



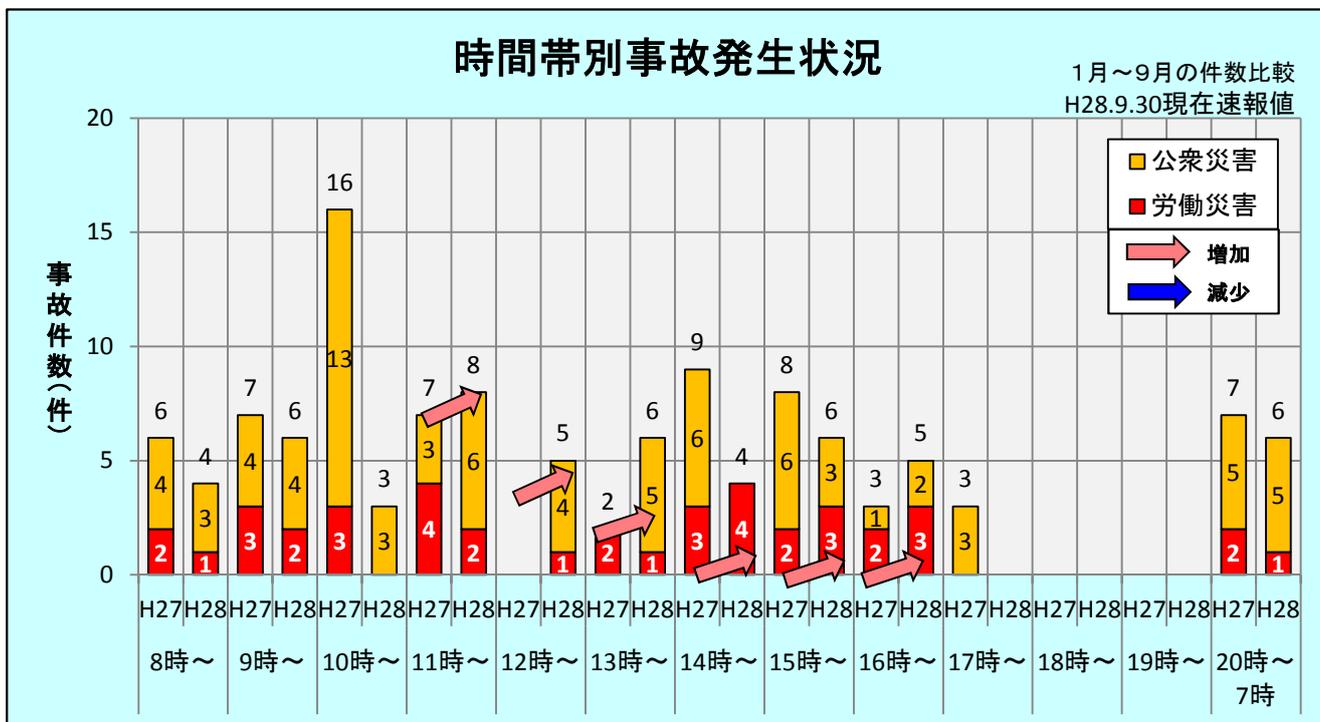
3) 月別の事故発生件数

H28とH27の月別事故発生件数を比較すると、6月は労働・公衆災害とも増加しているものの、7月・9月は大きく減少しています。



4) 時間帯別の事故発生件数

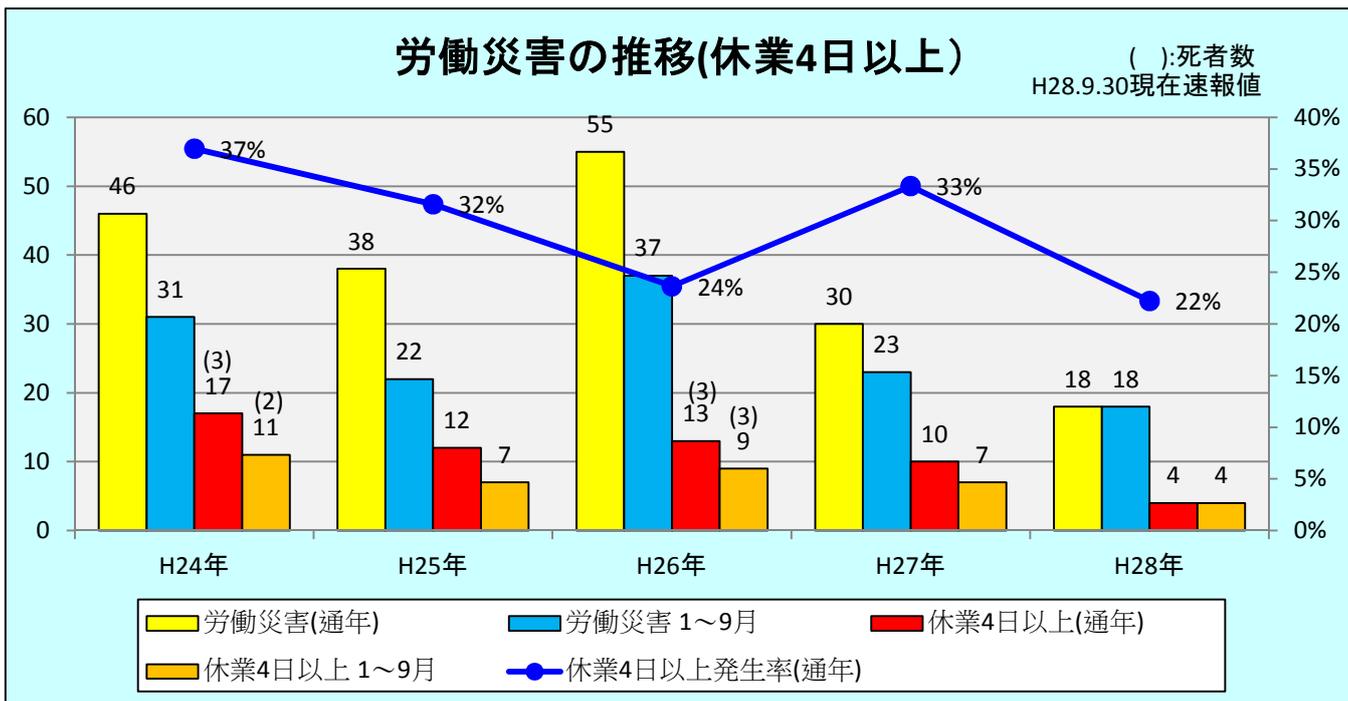
H28とH27の時間帯別事故発生件数を比較すると、労働災害は14時～16時台で増加し、公衆災害は11時～13時台で大きく増加しています。



2. 労働災害の発生状況

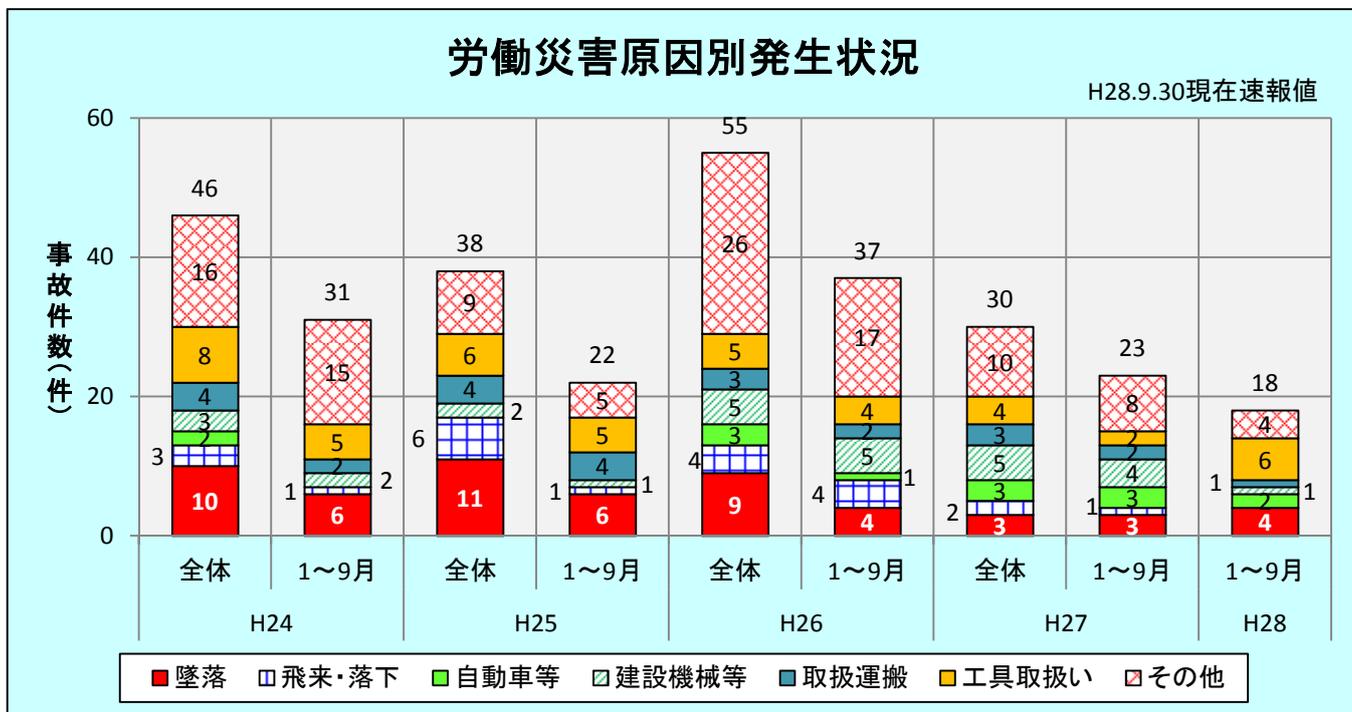
1) 休業4日以上の事故発生状況

H28年9月までの労働災害は18件と最も少なくなっています。休業4日以上の事故も4件発生し、こちらも最も少なくなっています。また、労働災害に占める休業4日以上の事故発生率は22%と少なくなっています。



2) 労働災害の原因別事故発生件数

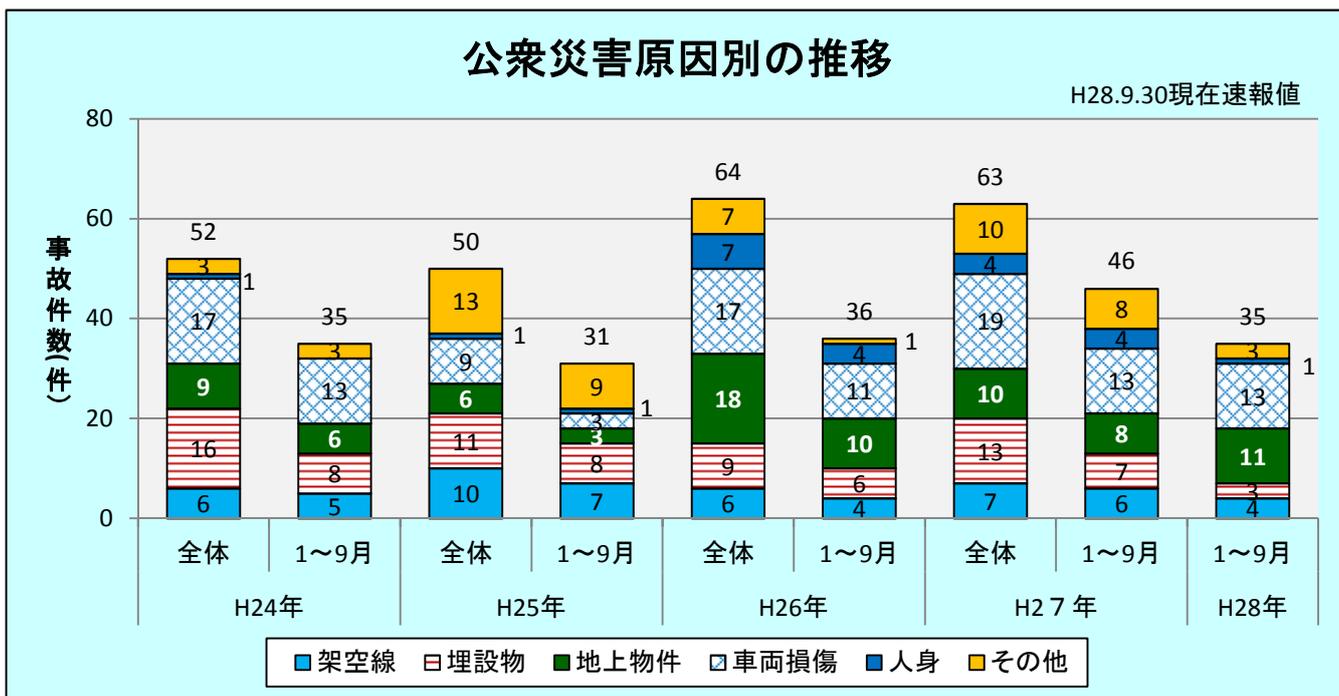
H28年9月迄の労働災害の事故発生原因では、墜落、工具取扱いが原因の事故が増えています。



※自動車等: ダンプトラック、乗用車等による事故 建設機械等: クレーン、バックホウ等による事故 取扱運搬: 荷下ろし中などでの事故
 工具取扱: プレーカー、ドリル等の作業工具による事故 その他: 倒壊、爆発、電気、その他による事故

3. 公衆災害の原因別発生状況

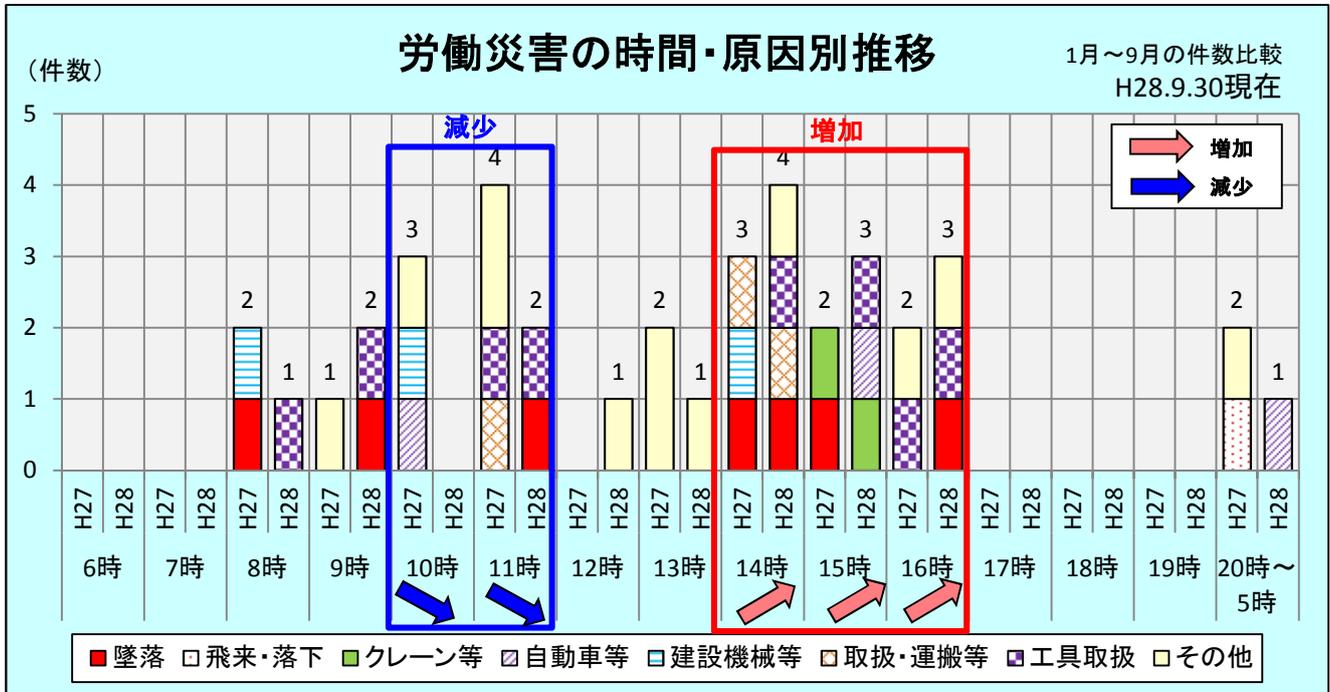
H28年9月迄の公衆災害の事故発生原因では地上物件の損傷、車両損傷による事故が多く、過去五年で最も多くなっています。



4. 時間帯・原因別の詳細分析

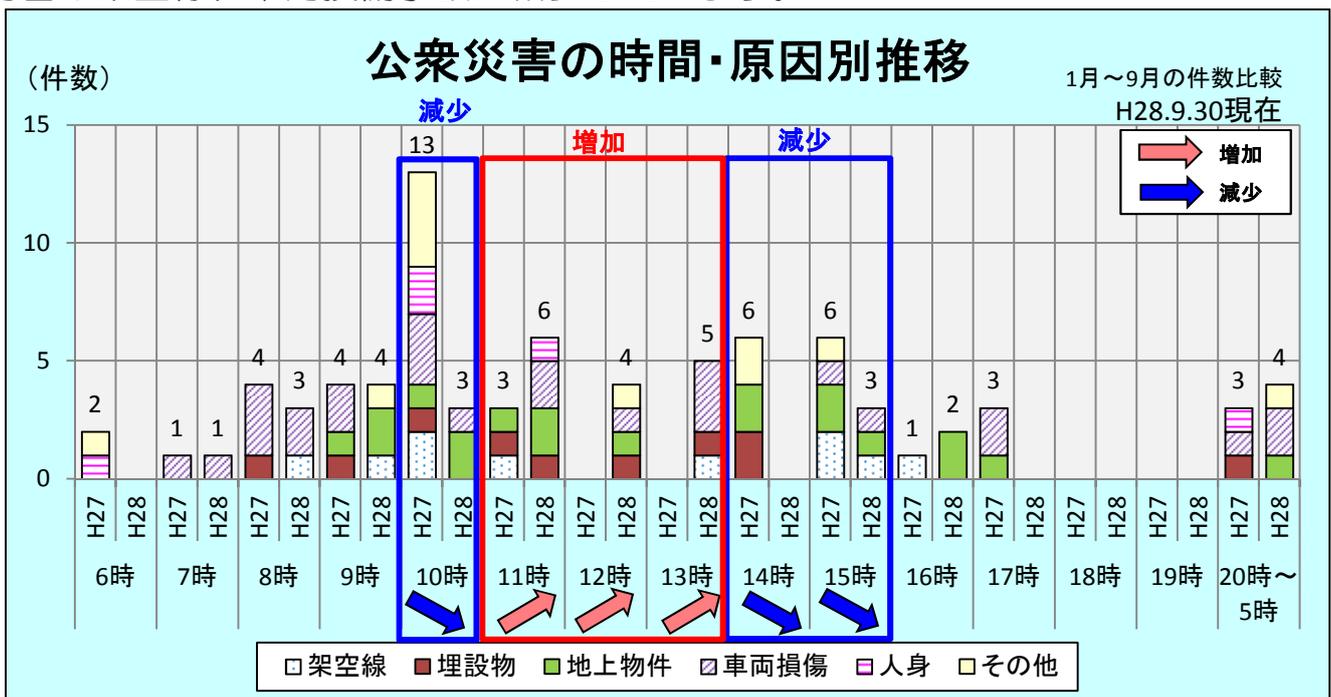
1) 労働災害

H28とH27の時間帯・原因別を比較すると、増加している14～16時台は工具取扱い事故が増加しています。また、減少している10～11時台は自動車等、建設機械等、取扱運搬等の事故が減少しています。



2) 公衆災害

H28とH27の時間帯・原因別を比較すると、増加している11～13時台は車両損傷事故が増加しています。また、減少している10時台、14～15時台は架空線、車両損傷事故が減少しています。



4. その他

建設工事事故データベース(SAS) への登録をお願いします。

地方整備局・都道府県・政令指定都市・機構等が発注する公共工事で発生した一定規模以上の事故の事故報告データの集合体です。収集されたデータは、建設工事事故対策検討委員会や発注者において、工事事故防止に向けた対策の検討・立案に利用しています。

・**休業4日以上**の建設工事事故について、受注者・発注者は必ずインターネットを利用して登録(入力)してください。

・「事故発生状況調書」は、技術管理課検査係で登録し、受注者への事故番号、パスワードを主任監督員へ通知します。



・登録対象となる事故

分類	事故の定義
労働災害	工事区域において工事関係作業が起因して、工事関係者が死亡あるいは負傷した事故。 資機材・工事製品輸送作業が起因して工事関係者が死亡あるいは負傷した事故。 なお、ここでいう負傷とは、 <u>休業4日以上</u> の負傷をいう。
もらい事故	工事区域において当該関係者以外の第三者が起因して工事関係者が死亡又は負傷した事故。 なお、ここでいう負傷とは、 <u>休業4日以上</u> の負傷をいう。
負傷公衆災害	工事区域における工事関係作業及び輸送作業が起因して当該工事関係者以外の第三者が死傷した事故。 なお、ここでいう第三者の負傷とは休業4日以上もしくはそれに相当する負傷をいう。
物損公衆災害	工事区域における工事関係作業及び輸送作業が起因して第三者の資産に損害を与えた事故にあって、第三者の死傷に繋がる可能性の高かった事故。

※ 工事区域: 工事作業現場内及び隣接区域

(参考)北陸地域の3ヶ月予報(H28.10.25新潟地方気象台)

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

12月 平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

1月 平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。



安全管理優良事例集を作成しました

今年度表彰を受けた16社の取組事例を北陸地方整備局ホームページ(<http://www.hrr.mlit.go.jp/gijyutu/ankenkanri.html>)に掲載しました。安全管理の参考にして下さい。

【問い合わせ先】 北陸地方整備局 企画部 技術検査官 金川

TEL 025-370-6702 FAX 025-280-8861